

しかはま自然観察会  『人も 自然も みんなともだち !』No.7	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市湖北台2-14-7 ☎090-7275-9890 2018, 8, 25~26
--	--

第7回活動 「白根山登山」

去年は雲取山、今年は日光の白根山に挑戦です。  
 台風は過ぎ去り、天気は大丈夫!と思ったのですが・・・  
 1日目のすごい登り、2日目は笹に悩まされての下山、  
 そして、久しぶりの避難小屋利用と、たくさんの新しい  
 ことに挑戦してきました。  
 「苦あれば楽あり」のような登山でした。

1, 日 時: 2018年8月25~26 (日) 1泊2日

2, 天 気: 1日目・・・晴れのち曇り、午後雷雨  
 2日目・・・晴れ  
 気 温・・・山頂で22℃

3, 交 通: ○東武日光駅集合

4. 場 所: ○日光白根山2578m  
 ○五色沼避難小屋

5, 参加者: 総数 8人  
           内訳 3家族           大人 3  
                                   小学4年 1  
                                   小学1年 1  
                                   スタッフ 3

6, 活動の様子

◆8月25日(土): 1日目、天気・・・晴れ午後3時過ぎ雨・雷  
 湯元でバスを降り、トイレ前で荷物や靴ひもの点検を済ませ、いざ出発!

○10:50

スキー場入り口で、登山届けを書く。が、以前に書かれた用紙が箱の中に  
 溜まったままだ。これでは、書く意味がない。  
 鹿に食べられないようにネットを張った中で、ピンク色のヤナギランが咲  
 いている。ヤナギランをみると、尾瀬沼にある平野家の墓地を思い出す。  
 スキー場内の広い道を、7人でゆっくり歩く。体調をととのえながら・・・

- 11:05  
スキー場の終了点。ふり返ると、湯元の街が見える。ここから、いよいよ尾根に取り付くのだ。  
登り始めはキツイ！。登山靴が大地に跳ね返されているようで、汗は出るし呼吸は乱れるし・・・。
- 12:27  
\*遭難碑 12月7日雪の日に雪崩に遭遇3名が死ぬ  
1732㌔付近。1946年12月7日、3人が雪崩に巻き込まれた。以前は、白根沢がルートだったが、事故後、道は尾根に変更されたのだ。碑を見ながら、そんな話しをして休息をとる。2人の子どもたちは元気いっぱいだが、大人たちの息づかいは荒い。  
\*木の根っこつかまえては這い上がるアクロバットのような登り道は浸食され、木の根っこが向きだしになっている。その根っこをつかまえて「よいしょ！」と声を出しながら体を引きあげる。このくり返しが2時間以上も続いた。いやになるほどの急登だった。
- 14:50  
2204㌔の外山に着く。やっと、平坦な場所に着いた。ここでお昼を食べながら、2人の後続を待つ。水が美味しい！ブドウが甘い！  
葛さんのスマホ情報によると、2時から雨。雨に遭わないうちに避難小屋に着きたいものだが・・・。  
\*「らくだネェー！」という四年の寛太くん平らな道のつづくを願うこれまでの急登を思うと、平坦な道のなんと楽なことか。寛太くんの言葉が身にしみる。
- 15:05  
白根沢をつめて、いよいよ天狗平につく。ダテカンバに囲まれた広い平坦地。テントも張れそうだが、視界はない。  
ここで、山口さんと、ようやく合流できた。
- 15:30  
\*前白根急に雷雨おそいくる雨具も靴もびっしょり濡れる  
前白根山2373㌔直前で、雨に遭う。一気に濡れてしまった。雷も鳴り始めた。急げ急げ！何とか五色沼へ下る樹林帯に入る。  
\*雨を避けダテカンバの下山道水の出会いにホット一息  
途中で沢水の音を耳にする。きれいな水が流れていた。喉を潤したり、補充したり。ここだけに湧きだしているようだ。  
雨も収まってきた。が、全身びっしょりだ。
- 17:00  
\*雨雲のカーテンひかれた五色沼びっしょり濡れた8人が立つ  
五色沼に着く。雨は上がった。水面は静かなままだ。太陽が出ると、五色に変化するのだろうか？かつては、魚は住んでいないといわれていた。が、30年ほど前、子どもたちと来たときには、岸边にワカサギのような魚がよこたわっていたのだが・・・。  
5時を過ぎている。早く避難小屋につきたい！が、なかなか現れない。

- 17:30
  - \*「あっ見えた」赤い屋根の避難小屋一人一人の顔色が緩む
  - 重い戸を開けて中に入る。誰もいない。今夜は貸し切りだ。20人は泊まれそうだ。ガスやハンガーなど、生活用品が残されている。10分遅れで、全員集合!
  - \*雨具干し濡れたものを取り替えてガスバーナーにコップを置く
  - \*夕食はラーメン・カレー・α米それぞれの味体にしみる
  - \*まだ7時もう体を横たえて明日の4時起床にそなえる
- 19:30
  - 全員「おやすみなさい!」
  - 20:00頃、トイレのために小屋を出る。星がいくつかでている。
- ◆ 8月26日:2日目、天気・・・晴れ
  - 4:00 起床
  - 5:00 避難小屋出発
    - \*小屋前で記念写真のポーズとりピタッとドア閉め5時出発
    - 簡単なコーヒーやココアを飲んで、出発。熟睡でき、体力回復できた避難小屋に感謝して、みんな元気よく歩きます。
    - ダテカンバを過ぎると、木々はなくなった。防寒用の雨具を脱いで、いよいよ白根山を目指す。高山の花や富士山が見えてきた。
  - 5:45
    - 中腹で、展望を楽しんだ。男体山・女峰山、雲海も見える。気分・体調はきわめて良好!
    - \*少しずつ高度を上げて歩む先リンドウ・フウロウ・トリカブトがいる
    - \*「あっ、見えた」雲海の上の三角は日本一の富士山だ
    - \*雲海の上に三角の山一つみんなで登ったあの時が浮かぶ
    - だんだんと石ころだらけの道となる。視界が広がり、白根が見えた!
  - 6:55
    - \*2578mの山頂に立つ8人360℃の大展望だ
    - 気温22℃。山頂は岩だらけの狭いスペース。大展望に満足満足!
    - 記念写真を撮ってから、朝食のために平坦な場所へ移動。土のある平坦な場所は、安心感があつていい。思い思いの朝食が始まる。食べながら絶景に見とれ、口を動かしてはまた山々を眺め続けている。
    - \*平坦な場所を見つけて朝食だ至福の一時気分は最高
  - 7:40
    - これからは下山となる。気分も背中の荷物も軽くなり、もう楽勝と思ったのだが・・・。
    - \*菅沼を見下ろしながら下る道昨日の登りはきつかったと親子鹿五色沼も見え隠れ登る人には声かけ余裕
  - 9:00
    - 弥陀ヶ池着。
    - \*あと二つだけの登りとスマホ見る歩みと呼吸を合わせて歩く
    - こんな道だったかな?と30年前と様子の違う道を、ひたすら歩く。

- 10 : 15
    - \*五色山ここから先は下りのみ白根をみながら余裕の一服
    - 五色山に、とうとう着いた。もう登りは無いのだ。白根山を仰ぎながら、エネルギーを補給。
    - 全員集合し、「下りだけ」の気持ちで、10 : 40下山を開始する。
  - 11 : 10
    - 国境平着。金精峠と湯元への分岐点。
    - あと2時間でバス停だ。1時過ぎには着けるかな？と・・・。
    - 5分も進んで、驚いてしまった。道が、笹で被われているのだ。どこまでも、どこまでも・・・。
    - \*この道は遠い昔に歩いた道視界は広く刈られた笹の
    - \*背丈より高い笹をかき分けてただただ笹をかき分けて進む
    - 途中、窪地に足をとられてしまった。笹で、凹凸がわからなかった。危うくアキレス腱を損傷しそうになった。
    - 慎重に、慎重にくだる。寛太くんも慎重にくだる。笹が切れると、今度は急勾配になる。クライミングダウンを取り入れながら、慎重に下る。
    - やっと、平坦地に着いた。寛太くんは、一気にバス停まで行くという。
  - 14 ; 15
    - バス停に着いた！
    - 寛太くんは、炭酸水を飲む。ビールが無いので、それを飲ませてもらう。
    - おいしいこと、その炭酸水！。
  - 14 : 40
    - 3人の後続も到着。すぐに温泉へ向かう。
- 7, 親と子の、いきいき感想
- 印象にのこったことは、前白根山の山頂についたときに、雷と風・雨がふってきて、急いでひなん小屋に向かったけど、五色沼で雷、風、雨はやんだけど、ひなん小屋に着くまでに30分以上かかって大変でした。
  - ひなん小屋の中は、電気もトイレもなかったけど、ただだったからがまんできました。
  - トイレにいった時に、シカがキャンキャンと鳴いていました。シカの鳴き声を聞くのは初めてだったので、よかったです。動物園じゃ、鳴き声は聞けません。
  - 夜は、何も入っていないラーメンを食べました。でも、お腹がすいていたのでおいしかったです。その後、ココアを飲んでねぶくろの中に入って、すぐにねてしまいました。
  - 朝は4 : 00に起きて、ココアを飲んだらすぐに行かなければいけなかったもので、けっこうきつかったです。
  - 山は、トリカブトというもうどくの草がいっぱいありました。あと、リンドウというお花もたくさんありました。
- 栗原北小4年
- お世話になりました。
  - 10年前に挑戦して、大雨で断念した山ですが、今回達成出来て、思いを遂

げる事ができました。

思っていたより体力的に厳しい山行でしたが、どうにか歩くことが出来て良かったです。

最後の温泉だけが心残りでしたが、日光市内が渋滞で、ひとつ早いバスで帰って、正解でした。

ありがとうございました。

横浜市在住

- 国境平からは、どうぞちゃんと2人で、先に下山を始めました。笹の道では、どうぞちゃんの気分が回復し、「初めて！こんなおもしろい道！」と、楽しんでいました。高山病だと思いますが、笹を過ぎると吐き気が出てきました。バスに乗ったら、回復しました。皆様が無事下山し、良かったです。

王子第一小1年

父

- 30年ほど前に、2回登ったことがあります。一度目は、登山倶楽部の仲間とでした。スイスイと登り、避難小屋に泊まり、頂上はガスっていましたが、運良くオコジョをみて、同じ道を帰ってきました。疲労感は、まったくありませんでした。二度目は、夏休みに、小学生の2人の子を連れて、テントを担いで登りました。当時も、外山までは急登でしたが、それほど浸食されておらず、そんなに疲れもなく登った記憶があります。「魚は住んでいない」と聞いていたのですが、五色沼の岸辺でワカサギのような魚が死んでいました。3時頃に着き、その岸辺でテントを張りました。暗くなるとシカの鳴き声が頻繁に聞こえ、不安にかられ、一晩中ろうそくをともしていました。翌日は、シカに追われるように、早々にテントをたたみ、弥陀ガ池から白根山を目指しました。ガスっていて道が分からず、そのまま五色山に向かいました。五色山までは快適な登りで、3人で白根山を仰ぎました。今回難儀したのが、国境平からの笹道でした。が、当時は両側の笹を広く刈ってあり、見通しは良く、子どもたちもスイスイとついてきてくれました。家に着いてから、子どもたちは「子ども会」に参加するほどでした。とにもかくも、「30年前は、若かったんだ！」と、今回の白根登山で思い知らされました。私にとって、「非常に疲れ、右膝が腫れて歩け無くなる」ほどの登山でした。が、腫れが収まるにしたがって、不思議と満足感とともに「出来る」と自信のようなものが湧いてきました。それは、久しぶりに13kgの荷物を背負ったこと、7時間以上を歩き続けられたこと、下山時に膝の痛みが出なかったこと、によるものでした。そして、何よりも信頼できる仲間がいたからでした。これからは、入浴のたびに膝のリハビリをし、畑仕事で体力をつけ、登山道具のメンテナンスに注意をそそぎ、地図をしっかりと読むようにしていきたいと、新たな決意に燃えているところです。